

第4章

コロンビア

1. コロンビアの概要

1.1) 一般事情

1. 面積 1,139,000平方キロメートル(日本の約3倍)
2. 人口 4,770万人(2012年世銀)
3. 首都 ボゴタ(Bogota)
4. 民族 混血75%、ヨーロッパ系20%、アフリカ系4%、先住民1%
5. 言語 スペイン語
6. 宗教 カトリック

1.2) 政治・経済

1. 政体 立憲共和制
2. 元首 フアン・マヌエル・サントス・カルデロン大統領
3. 議会 二院制:上院102、下院166議席(任期4年)
4. 政府
 - (1) 首相 首相職無し
 - (2) 外相 マリア・アンヘラ・オルギン・クエジャル
5. 一人当たりGNI
7,970ドル(2014年世銀)

1.3) 教育制度等

1. 担当行政機関 教育省(Ministerio de Educación Nacional)
2. 学校制度 5・4・2・5制
3. 義務教育期間 5歳～14歳(就学前教育及び1学年～9学年)
4. 学校年度 1月21日～11月29日
5. 学期制 2学期制
6. 授業料 33,600～50,400ペソ/1年
7. 成人の識字率 94%
8. 初期教育純就学率 86%

1.4) 日本との関係

- 1908年 外交関係樹立
- 1929年 移民入植
- 1954年 外交関係再開

2. 日本語教育機関分布状況

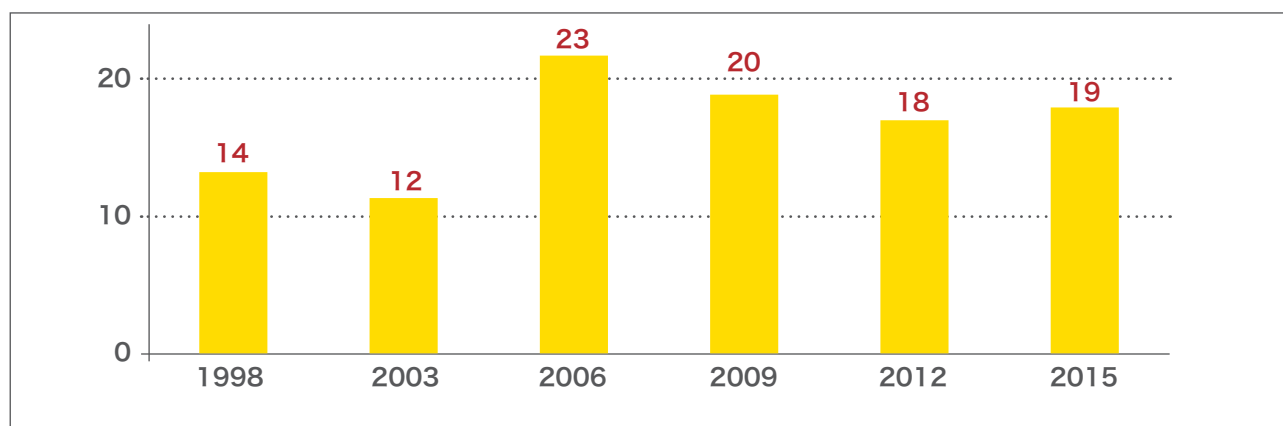


http://d-maps.com/carte.php?num_car=15142&lang=en

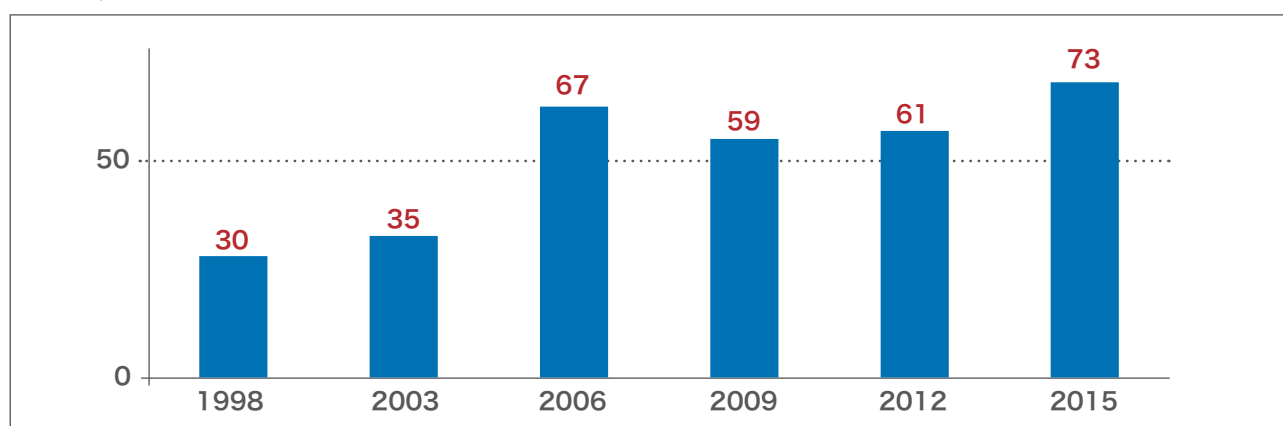
3. 日本語教育事情

3.1) 基本情報

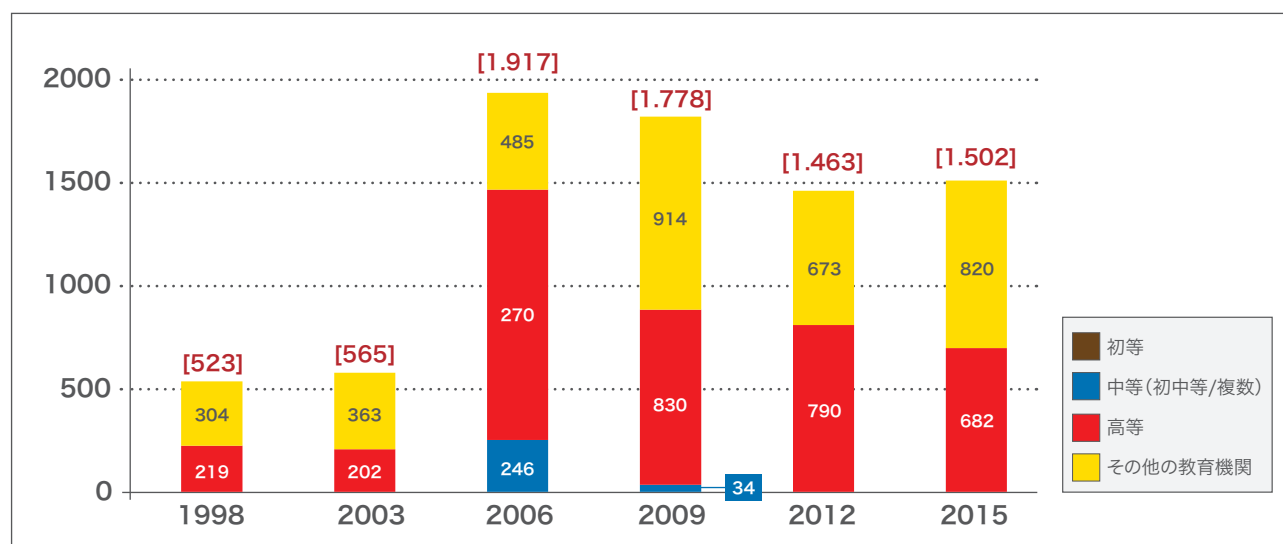
3.1.1)機関数(1998年～2015年)



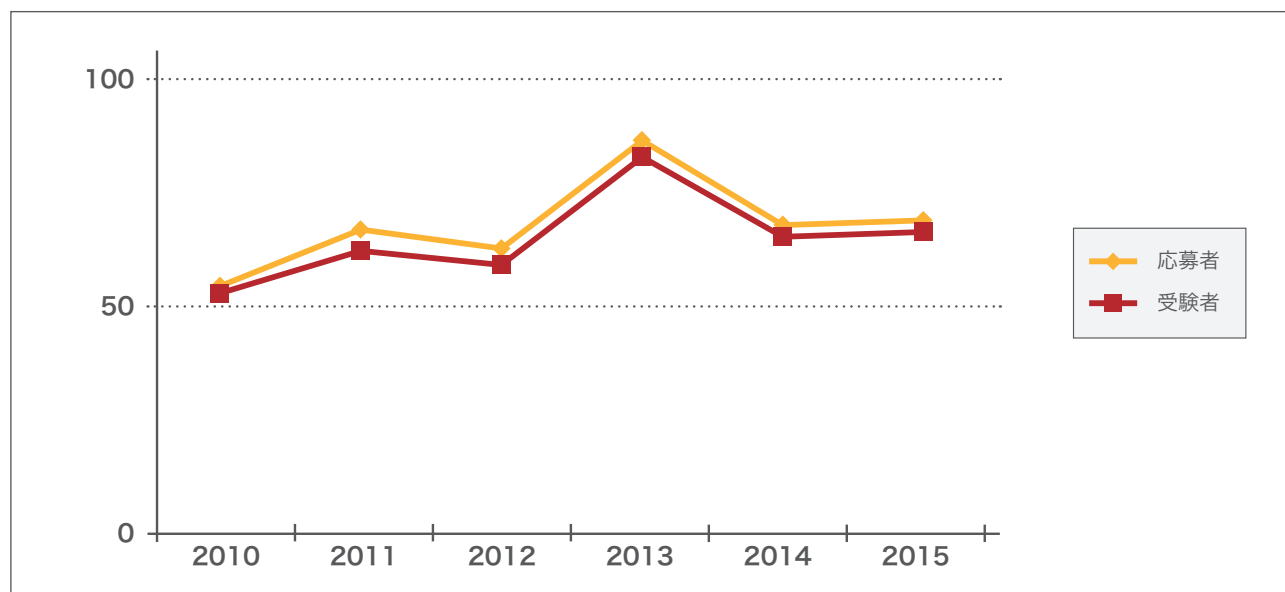
3.1.2) 教師数(1998年～2015年)



3.1.3) 教育段階別学習者数(1998年～2015年)



3.1.4) 日本語能力試験応募者数・受験者数(2010年～2015年)



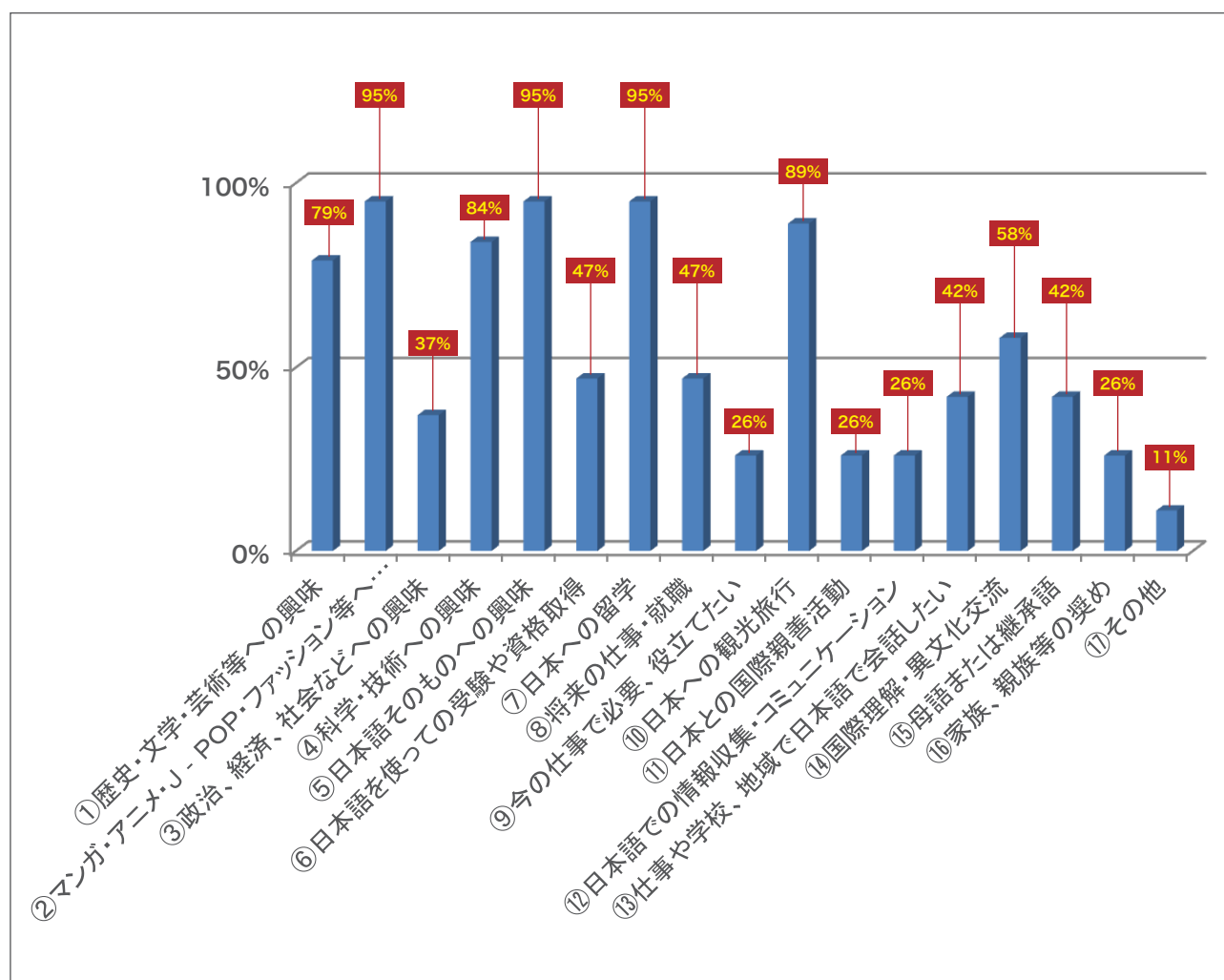
	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
応募者	54	66	62	85	67	68
受験者	53	62	59	82	65	66

- ▶ 実施都市： ボゴタ(開始年:2009年)
- ▶ 時期： 12月
- ▶ 実施機関： ロスアンデス大学 日本語能力試験コロンビア委員会

2015年 JLPTレベル別受験者数

レベル	N1	N2	N3	N4	N5	合計
人数	3人 (5%)	8人 (12%)	15人 (23%)	21人 (32%)	19人 (29%)	66人

3.1.5) 日本語学習の目的・理由(2015年)



3.1.6) 日本語教育実施状況(2015年)

項目	スケール	機関数	割合
A 学習者数に対する教師の数	多い	0	0%
	ちょうどよい	9	47%
	少ない	7	37%
	わからない	3	16%
B 十分な日本語運用能力を備えている教師	4分の3以上	13	68%
	2分の1程度	5	26%
	4分の1以下	1	5%
	わからない	0	0%
C 十分な日本語教授の知識・技術を備えている教師	4分の3以上	11	58%
	2分の1程度	4	21%
	4分の1以下	3	16%
	わからない	1	5%
D 日本語教材、教授法に関して積極的に情報収集を行っている教師	4分の3以上	13	68%
	2分の1程度	4	21%
	4分の1以下	2	11%
	わからない	0	0%
E 日本の文化・社会に関して積極的に情報収集を行っている教師	4分の3以上	11	58%
	2分の1程度	5	26%
	4分の1以下	3	16%
	わからない	0	0%
F 学習者数に対して日本語教材の数	十分である	3	16%
	概ね揃っている	5	26%
	不足している	11	58%
	わからない	0	0%
G 現在使っている教材は学習者に合っているか	非常に合っている	7	37%
	どちらかといえば合っている	11	58%
	不足している	1	5%
	わからない	0	0%
H 現在使っている教材は教える内容・目的の面で適切か	適切である	7	37%
	どちらとも言えない	10	53%
	適切ではない	2	11%
	わからない	0	0%
I 施設(建物・教室)の状況	よい	9	47%
	現状で支障はない	4	21%
	やや支障がある	6	32%
	わからない	0	0%
J 日本語教育設備、機器の状況	よい	8	42%
	現状で支障はない	5	26%
	やや支障がある	6	32%
	わからない	0	0%
K 積極的に授業に取り組む学習者	4分の3以上	17	94%
	2分の1程度	1	6%
	4分の1以下	0	0%
	わからない	0	0%

※50%以上 、30%~49% (無回答を除く)

3.2) 機関情報

3.2.1) コロンビア日系人協会附属日本語センター「光園」

西語名: Asociación Colombo Japonesa, Centro de Idioma Japones “Hikarien”

住所: Calle 13N # 6N-40, Cali

電話: +57-2-660-4505

メール: directorhikarien@gmail.com(校長) / acjcolegio@gmail.com

サイト: www.centroculturaljapones.com

概要: 光園は首都ボゴタから飛行機で約1時間のサンティアゴ・デ・カリ(通称カリ)にある。1968年に日系人子弟への継承日本語教育を目的として日本語が教えられるようになった。2018年に創立50周年を迎える。さくらネットワークメンバー。近年、当地の日本語学習者は増加傾向にあるが、日系人子弟が占める割合は年々少なくなっており、現在は学習者数全体の1割を切る。教師数12人(日本人7人、コロンビア人5人)、学習者数160~170人(幼少年クラス約30人、成人クラス約130人)。日系子弟は幼少年クラスに13人のみ。光園はコロンビアの他機関に先駆けて、2014年に教科書を『みんなの日本語』から『まるごと』に移行している。これはコロンビア教育省が90時間以上の外国語のコースを提供している外国語教育機関にヨーロッパ共通参照枠組み(CEFR)に準拠することを求めたためである。

光園主催でコロンビア日本語教師合同研修会やコロンビア西部地区日本語スピーチコンテストを毎年1回実施しており、2015年にはそれぞれ第25回目、第26回目を迎えた。

コロンビア人の日本語や日本文化への興味、学習意欲は年を経るごとに高まっており、その需要に応えるべく、2017年には大使館や日本財団からの助成を得て、カリ市南部に新たな校舎を建設する予定(現在の校舎はカリ市北部にある)。2017年8月にはカリ市南部に8教室(120人収容)の新校舎が完成予定。

3.2.2) 私立ロスアンデス大学

西語名: Universidad de Los Andes

住所: Carrera 1 # 18A-10 Edificio Franco, Piso 5., Bogota

電話: +57-1-339 4949

メール: bs.forero@uniandes.edu.co / h.kondo@uniandes.edu.co

サイト: www.uniandes.edu.co

概要: 首都ボゴタにある私立大学。日本語講座は、同大学社会科学学部言語文化学科で実施運営されている。同学科で外国語を主専攻とする学生は、言語学及び英語、ドイツ語、フランス語から1つ第一言語として選び履修することが義務付けられている。また、その他に、第一言語以外の言語もう一言語(第二言語)、言語教育学、カルチュラルスタディーズから1つを選択履修しなければならない。第二言語の選択肢は、第一言語以外に英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、ポルトガル語、中国語がある。以前は日本語を第一言語として選択することができたが、最終到達度が他の言語と比べ低いことから、第一言語の選択肢から外れ、第二言語としてのみ選択可能になった。2016年10月現在は、旧制度と新制度の過渡期であり、「日本語3」以上のクラスの学生の中には、第一言語もしくは第二言語として日本語を学んでいる学生もいるが、「日本語2」以下の学生は日本語を第二言語として学んでいる。同学部を卒業する際には、旧制度ではProfesional en Lenguajes y Socioculturales(言語社会文化)、現制度ではProfesional en Lenguas y Cultura(言語文化)の学位が与えられる。同大学は、文部科学省「大学の世界展開力強化事業⁴⁴」を通じて、筑波大学、上智大学、南山大学と交流協定が結ばれている。

⁴⁴ 第一部1-2<参考3>文部科学省の中南米対象事業

3.2.3) コロンビアと日本の絆

西語名: Fundación colombo Japonesa

住所: Calle 114 # 67 – 75, Bogotá (condominio cerrado内)

電話: +57-1-358-3343

メール: secretaria@colombojaponesa.com

サイト: www.colombojaponesa.com

概要: 2012年の機関調査では学習者数185名であったが、2016年10月時点で約100名とのこと。学校移転や教材変更のため、学習者が少ない状態が続いている。同機関はもともと日文研協(にぶんけんきょう)(1976年-)の日本語教師が1992年に現理事長と始めた日西学院が始まり。2002年に非営利法人(NPO)となり、2012年に名前をFundación Colombo Japonesa(邦名:コロンビアと日本の絆)と改めた。1992年の設立当初から日本から日本語教師を採用している。独自の教材および教授法があり、学校内でOJTによる教師研修を行っている。同校で教師経験を積んだのち、独立し、新たに学校を設立している教師もいる。開講講座は、平日コース、土曜日コース、プライベートコースの3種類。また2015年に日本語学習プラットフォームを使った日本語オンライン講座を始めている。同講座には国内のみならず南米およびドイツ、フランスなどヨーロッパからも学習者の登録がある。

3.2.4) コロンビア全国日本語教師会・日本語教育研究会

「3-3 教師会」を参照。

3.3) 教師会

2015年に数名の日本語教師の有志が個人的に始めた勉強会が始まり。2015年9月にペルーで行われた南米会議において教師ネットワークを作ること勧められ、2016年3月11日に行われた意見交換会にてコロンビアの日本語教師会の発足が宣言された。教師会としての第1回勉強会は同年7月に行われた。事務局はロスアンデス大学が担当している。

機関名 (原語/日本語)	La asociación colombiana de profesores de japonés y de investigación sobre la enseñanza del japonés /コロンビア全国日本語教師会・日本語教育研究会
住所	ロスアンデス大学に同じ。
連絡	h.kondo@uniandes.edu.co (事務局)
設立/会員数	2016年10月/約55人
活動	・研究会や講演会の企画、運営 ・日本語教育に関する研究や、授業のアイデアなどの共有 ・日本語教授法の研究と応用(外国語教授法全般も含む)
組織概要	<ミッション>「コロンビアの日本語教育の質向上」 1. 日本語教師間のネットワーク構築と強化 2. お互いに切磋琢磨しながら成長する 3. 若手日本語教師を育てる 4. 情報や授業のアイデアを共有する 5. 日本語教授法の研究と応用 6. おいしいものを食べる

ロスアンデス大学公認の日本語教育研究団体になることを目指している。大学公認の組織になると、講師招聘の際に助成が出る可能性があるが、そのためには、研究論文投稿実績(最低1年に1回)などが必要となる。

3.4) 教師資格・教師養成

3.4.1) 教師資格

各機関で資格・条件を設定しているところもあるが、全体的に特に日本語教師としての資格要件はない。国立大学では日本語教師養成課程修了の有無に関わらず、学士号のある者を最低条件としている。ロスアンデス大学では修士課程修了を条件としている。

3.4.2) 教師養成

光園(☞3-2-1)主導で毎年、JICAの助成事業である「コロンビア日本語教師合同研修会」を年1回開催している。また、機関によってはベテラン教師が新人教師に対してOJTを実施している。

コロンビア教育省直轄の留学斡旋機関であるコロンビア留学推進協会(ICETEX)によるコロンビア人教師のための外国語学習補助制度(2005年開始)もある。

3.5) 研修・助成利用実績

3.5.1) 教師対象

南米の日本語教師が利用できる教師研修には、JFの公募プログラムにある海外日本語教師研修、CBLJが行っている汎米研修がある(☞第一部3-2, 3-3)。また、日系人であれば、JICAの日系研修も利用可能である。

▶ JF訪日研修参加実績(1989年～2016年)

年	研修	所属(申請当時)
1989	短期研修	コロンビア日系人協会附属日本語学校
1989	長期研修	日文研協日本文化センター
1990	短期研修	コロンビア日系人協会附属日本語学校
1990	長期研修	日文研協日本文化センター
1991	短期研修	日文研協日本文化センター
1993	長期研修	国立コロンビア国立大学 外国語センター
1994	短期研修	コロンビア日系人協会附属日本語学校
1994	在外邦人研修	エアフィット大学
1996	短期研修	コロンビア日系人協会附属日本語学校
1998	短期研修	コロンビア日系人協会附属日本語学校
1999	長期研修	コロンビア日系人協会附属日本語学校
1999	在外邦人研修	サンティアゴデカリ大学
2002	短期研修	コロンビア日西学院
2002	長期研修	アンティオキア大学 外国語学科
2003	長期研修	コロンビア国立大学
2004	長期研修	ナショナル大学
2005	長期研修	コロンビア国立大学
2007	短期研修	コロンビア日系人協会附属日本語学校
2008	短期研修	バジェ大学
2009	短期研修	日西学院
2010	長期研修	東洋言語学院
2011	短期研修	天理日本語教室
2011	長期研修	東洋言語学院
2012	長期研修	東洋言語学院
2014	短期研修	コロンビア日系人協会日本語センター「光園」
2015	長期研修	コロンビア日系人協会日本語センター「光園」
2015	上級研修	東洋言語学院
2015	上級研修	東洋言語学院
2016	短期研修	東洋言語学院

※ 在外邦人研修は現在行われていない。日系人研修は2012年度から開始。

▶ CBLJ汎米日本語教師合同研修会参加実績

年度	人数	機関
2004	1人	不明
2005	1人	コロンビア日系人協会附属日本語学校
2007	1人	コロンビア日系人協会附属日本語学校
2009	1人	コロンビア日系人協会附属日本語学校
2011	1人	ロスアンデス大学
2015	1人	コロンビア日系人協会「光園」日本語センター
合計	6人	

その他に日系人の日本語教師が利用できる研修にJICAの日系研修がある。

www.jica.go.jp/partner/nikkei/index.html

3.5.2) 学習者対象

日系非日系を問わず利用できるものには、JF本部事業の「日本語学習者訪日研修」、FJSP主催の「南米中等教育生徒サンパウロ研修（以下、サンパウロ研修）」がある。サンパウロ研修の対象者は、公教育の日本語講座で2年以上の日本語学習経験がある13歳から18歳までの学習者が対象となっている。

日系人であれば、JICAの日系次世代育成研修⁴⁵、CBLJ主催のふれあいセミナー⁴⁶（費用は自己負担）などがある。

▶ JF日本語学習者訪日研修（各国成績優秀者）

日本語を学習し、優秀な成績を修めている学習者を2週間日本に招へいし、講義や研修旅行を通じて、日本語および日本文化・社会への理解を深める機会を提供するプログラム。以下は参加実績。

年度	人数	所属先（申請当時）
1997	2人	コロンビア国立大学、コロンビア日系人協会付属日本語学校
1998	2人	ディステリタル大学、レストラン「ウェルカム」
1999	2人	ディステリタル大学、バジェ大学
2000	2人	コロンビア国立大学、芸術大学
2001	2人	コロンビア国立大学
2002	1人	コロンビア国立大学
2003	1人	コロンビア日西学院
2004	1人	コロンビアナショナル大学
2005	0人	
2006	1人	東洋言語学院
2007	1人	デクソン・ソフトウェア
2008	1人	ロスアンデス大学
2009	1人	NPO法人日西学院
2010	1人	アンデス大学
2011	1人	アンデス大学
2012	1人	サンティアゴデカリ大学
2013	1人	ウニエンプレサリアル
2014	1人	ロスアンデス大学
2015	1人	バジェ大学

※ 参加者は、国際交流基金海外拠点または在外公館の推薦にもとづき、関西国際センターが決定する。2014年よりコロンビア全国日本語弁論大会の優秀者を推薦するようになった。ただし、大使館による筆記試験及び面接により最終決定される。

▶ 南米中等教育生徒サンパウロ研修

初中等教育段階に対象機関がないため、対象国になっていない。

⁴⁵ 詳しくは各国JICA事務所、支所に問い合わせください。

⁴⁶ 詳しくはCBLJのサイト（www.cblj.org.br）を参照。

3.5.3) 機関支援(助成)

2009年度まで海外における日本語教育の分野には「海外日本語講座現地講師謝金助成」、「海外日本語弁論大会助成」、「海外日本語教育ネットワーク形成助成」、「日本語教材寄贈」があったが、2010年度よりこれまでのプログラムを統合した新しい公募助成プログラム「日本語普及活動助成」が実施されるようになった。また、同助成は2017年度より名称が「海外日本語教育機関支援(助成)」に改められた。⁴⁷

年度	機関	助成
2007	ハベリアーナ大学	海外日本語弁論大会助成
2007	コロンビア日系人協会付属日本語学校	海外日本語弁論大会助成
2007	ポリテクニコ・グランコロンビアノ大学	日本語教材寄贈
2007	コロンビア日系人協会付属日本語学校	日本語教材寄贈
2007	ハベリアーナ大学	日本語教材寄贈
2007	アバジェ大学	日本語教材寄贈
2007	コロンビア国立大学	日本語教材寄贈
2007	東洋言語学院	日本語教材寄贈
2007	コロンビア日西学院	日本語教材寄贈
2008	ハベリアーナ大学	海外日本語弁論大会助成
2008	コロンビア日系人協会付属日本語学校	海外日本語弁論大会助成
2008	ロスアンデス大学 言語学と文化社会学部	日本語教材寄贈
2008	中央銀行付属 ルイス・アンヘル・アランゴ図書館言語室	日本語教材寄贈
2008	日本文化アカデミー	日本語教材寄贈
2008	コロンビア日系人協会付属日本語学校	日本語教材寄贈
2008	アンティオキア大学 語学部	日本語教材寄贈
2008	教皇庁ボリバリアーナ大学 教育学部ランゲージセンター	日本語教材寄贈
2008	コロンビア国立大学 外国語学部	日本語教材寄贈
2008	バジェ大学 言語文学部	日本語教材寄贈
2009	コロンビア日系人協会付属日本語学校	海外日本語弁論大会助成
2009	コロンビア日系人協会付属日本語学校	日本語教材寄贈
2009	コロンビア国立大学 外国語学科	日本語教材寄贈
2010	コロンビア日系人協会付属日本語学校	教材購入助成
2010	コロンビア日系人協会付属日本語学校	学習者奨励活動助成
2011	コロンビア日系人協会付属日本語学校	教材購入
2011	コロンビア日系人協会付属日本語学校	学習者奨励活動
2014	コロンビア日系人協会 日本語センター「光園」	学習者奨励活動助成
2015	コロンビア日系人協会 日本語センター「光園」	学習者奨励活動助成
2015	ロスアンデス大学	学習者奨励活動助成

⁴⁷ 参考：「平成29年度公募プログラムガイドライン」www.jpff.go.jp/j/program/dl/guidelines_j_2017.pdf

3.6) 出講・派遣実績

3.6.1) JF専門家

▶ 出講実績

年度	訪問先／研修会名	テーマ／内容
2005	日本語教育巡回指導(ボゴタ、カリ)	自動詞と他動詞の教え方
2011	日本語教師研修会(ボゴタ、カリ)	Can-doって何だ？ 読めるって何だ？聞けるって何だ？話せるって何だ？書けるって何だ？
2015	日本語教師研修会(ボゴタ、カリ)	『まるごと』の理論と実践、年少者への日本語指導
2016	日本語教師研修会(ボゴタ) 第25回教師合同研修会(カリ)	Can-doから授業を組み立てる(研究授業) ワンランクアップを目指して(授業をふりかえる)

3.6.2) JICAボランティア⁴⁸

1986年から2015年までにJICAから派遣された日本語教育ボランティアは総計27人。2013～2015年にカリのコロンビア日系人協会(カリ)に日系社会青年ボランティアが派遣されたのを最後に、現在は治安悪化のためカリへの派遣は見合わせられている。

【 青年海外協力隊・シニア海外ボランティア 】

	配属先	人数
高等教育	コロンビア国立大学	8人
	バジェ大学言語学部日本語科	3人
	コロンビアエクステルナド大学	1人
その他	日本・コロンビア友好協会 「日本の友達」	1人
	balanキージャ教育委員会	1人

【 日系社会青年ボランティア・日系社会シニアボランティア 】

	配属先	人数
日系日本語学校	コロンビア日系人協会	13人

⁴⁸ JICAナレッジサイト「国別派遣概況【中南米】※外部公開用※」

4. 行動計画

4.1) 現状認識

【地理的状況】

日本の3倍ほどの広さがあり、日本語教育機関は首都のボゴタ以外に、カリ、メデジン、バランキージャといった地方都市にも点在している(☞2.日本語教育機関分布状況)。日本語教育機関がもっとも多く、地理的に便利の良いボゴタが中心的な役割を果たしているが、日本語教育の歴史の長いカリも、コロンビア西部地区において中心的な役割を果たしている。

【沿革と現在の日本語教育類型】

1929年にカリに計画移住者が送り出されているが、カリで日本語教育が始まったのは戦後1968年である。現在のコロンビア日系人協会日本語センター「光園」(以下、光園)の前身である「ひかり園」で、日系人子弟への継承日本語教育が行われるようになったのがコロンビアの日本語教育の始まり。コロンビアへの計画移住は、地域や移住者数が限定されていること、移民のリーダーが現地社会への同化を進めたこともあり、現在の日本語教育の主流は外国語としての日本語教育となっている。高等教育における日本語教育はJICAの支援を受け1987年に国立コロンビア大学において始まり、現在の日本語教育機関数の半分は高等教育段階。2014年に、コロンビア教育省が90時間以上の外国語コースを提供する外国語教育機関に、ヨーロッパ共通参照枠組み(CEFR)に準拠するコースを提供するよう求めたため、該当する日本語教育機関は、JF日本語スタンダード準拠教材である『まるごと 日本のことばと文化』に移行したり、独自教材の改訂を行ったりしている。

【日本語教育の全体的状況】

2015年のJF日本語教育機関調査では、機関数19、教師数73、学習者数1,502で、学習者数は2006年をピークに減少傾向にある(☞3-1)。日本語が教えられているのは、その他の教育機関と高等教育機関で、それぞれの学習者数はほぼ半々。高等教育機関においては、日本語を専攻科目として位置づけられているところはなく、公開講座や選択科目として日本語が教えられている。学習者数に対するJLPT受験者数の割合は少ない(☞第一部4-3)。

【日本語学習の目的・理由】

マンガ・アニメなどのポップカルチャーや日本語そのものへの興味、並びに日本への留学の割合が高い(☞3-1-5)。

【日本語教育の実施状況】

全体的に課題として意識されているのは日本語教材の数である(☞3-1-6)。教材が、CEFRに準拠した教材でなければならないため、使用できる教材が限定される。また、『まるごと』の入手についても値段的に難しいと考えられる。機関によっては、教師数や教師の日本語運用能力、教授知識・技術なども課題として意識されている。非母語話者教師(日系ではない現地の日本語教師)の比率が高いが(☞第一部3-1)、訪日研修も積極的に利用されており、日本語運用力、日本語教授力は低くはない。ただ、すべての新人教師が訪日研修を受けられるわけではないため、現地での教師養成、教師研修実施の機会を作っていくことが肝要である。

【中核機関／主要機関】

地理的状況および実施している日本語教育関連事業の観点から、JFにほんごネットワーク（通称さくらネットワーク）のメンバーであるカリの光園と、ボゴタに事務局を置く「コロンビア全国日本語教師会・日本語教育研究会」（以下、教師会）を中核機関とする（☞3-2-2, 3-3）。光園は長年日本語弁論大会や教師合同研修会を実施し、日本語教育の普及に努めている。また、ロスアンデス大学は教師会事務局を担っているだけでなく、大使館とともに日本語能力試験や2015年から始まった全国弁論大会も共催で実施している。

【ネットワーク状況】

2015年に全国弁論大会、2016年に教師会が設立され、国全体を対象にした日本語教育イベントが行われるようになった。以前は、JF、日本、南米各国とのつながりはあまりなかったが、2015年と2016年の南米会議を通して、出席した教師や日本語教育関係者とのネットワークが構築されつつある。また、高等教育機関においては、日本の大学との交流協定が締結されているところもある（☞3-2-2）。

【教師養成、教師研修】

教師養成講座や機関はないが、ロスアンデス大学で行われている日本語を第一言語として専攻している学生を対象とした教育実習や各機関で行われているOJTによる教師研修などが教師養成につながっていると言える。JF訪日研修、JF助成は積極的に利用されており、上級研修受講者もいる。また、汎米研修への参加者も6人いる（☞3-5-1, 3-5-2）。

【公的派遣実績】

2005年の巡回指導、2011年、2015年、2016年の教師研修（弁論大会審査員を含む）に3回、JF専門家が出講（☞3-6-1）。1986年から2015年までにJICAから派遣された日本語教育ボランティアは総計27人（☞3-6-2）。現在、コロンビアへのJICAボランティアの派遣はなく、治安上の理由でカリへの派遣は中断されている。

【特記事項（最新動向など）】

日系企業80社のうち本邦企業が11社とその他の南米スペイン語圏の国と比べると日本企業の進出が多い。日本とコロンビアの間には、2015年に投資協定が発効、また2011年にコロンビアが経済連携協定（EPA）への参加を表明しており、交渉が続けられている。現在、二国間関係発展のため、在コロンビア大使館はロスアンデス大学と連携して、「日本文化・経済・学術センター（仮）」設立プロジェクトを進めている。

4.2) 方針と具体策

- (1) 大使館とロスアンデス大学が協同で進めているプロジェクトである「**日本文化・経済・学術センター(仮)**」を通じて、両国の市民レベルの相互理解を図るとともに、学術・経済・政治・経済・文化等広い分野における人材育成を目指す。
 - イ) JICA・FJSP・MCは、大使館と相談しながら、必要かつ可能な支援を行う。
- (2) 国内の教師間および機関同士のネットワーク強化を図るとともに、**教師会の中核機関としての機能拡大**を目指す。
 - イ) 教師会が、日本語教育機関・教師および大使館・JICAと連携をとりながら、全国を対象とした学習者奨励活動、教師研修等を行う。
 - ロ) FJSP・MCは、大使館・JICAとの連携のもと、教師会の要請に応じ、専門家出講(巡回指導)、助言等を行う。
- (3) 日本語運用力および教授知識・技術のブラッシュアップを図ることで、**日本語教育の質的向上**を目指す。
 - イ) 西部地区を担当する光園が、大使館・JICAと連携のもと、教師研修、『まるごと』を使った講座の実施運営を行う。
 - ロ) 各日本語教育機関・教師が、教師研修の機会を利用することで、CEFR/JF日本語教育スタンダードへの理解を深めるとともに、日本語運用力および教授知識・技術の向上に努める。
 - ハ) FJSP・MCは、大使館・JICAとの連携のもと、光園の要請に応じ、専門家出講(巡回指導)、助言等を行う。
- (4) 既存の教育機関における**日本語学習者数の維持・拡大**を図る。
 - イ) 教師会・光園が、大使館・JICAと連携のもと、学習奨励活動を実施する。
 - ロ) FJSP・MCは、大使館・JICA・教師会と連携しながら、必要かつ可能な支援を行うとともに、JF開発のオンラインコンテンツに関する情報提供や、助言等を行う。